

5.1.7 施設・設備

【評価項目 13-0-1】 施設・設備等の整備（情報インフラを含む）

- （必須要素）大学・学部等の教育研究目的を実現するための施設・設備等諸条件の整備状況の適切性
- （必須要素）教育の用に供する情報処理機器などの整備状況
- （選択要素）社会へ開放される施設・設備の整備状況
- （選択要素）記念施設・保存建物の保存・活用の状況
- （KG1）校地・校舎面積の状況
- （KG2）資産・備品の管理状況
- （KG3）教室の整備・運用状況
- （KG4）視聴覚機器の整備・運用状況
- （KG5）情報処理機器等の整備・運用状況
- （KG6）研究室の整備状況（個人研究室、共同研究室等）
- （KG7）研究所の整備・運用状況
- （KG8）課外活動施設の整備・運用状況
- （KG9）厚生施設の整備・運用状況
- （KG10）体育施設の整備・運用状況
- （KG11）学外施設の整備・運用状況（千刈、立山、戸隠等）
- （KG12）ネットワークシステムの整備状況

【評価項目 13-0-6】 キャンパス・アメニティ等

- （必須要素）キャンパス・アメニティの形成・支援のための体制の確立状況
- （必須要素）「学生のための生活の場」の整備状況
- （必須要素）大学周辺「環境」への配慮の状況

【評価項目 13-0-7】 利用上の配慮

- （必須要素）施設・設備面における障害者への配慮の状況
- （選択要素）各施設の利用時間に対する配慮の状況
- （選択要素）キャンパス間の移動を円滑にするための交通動線・交通手段の整備状況

【評価項目 13-0-8】 組織・管理体制

- （必須要素）施設・設備等を維持・管理するための責任体制の確立状況
- （必須要素）施設・設備の衛生・安全を確保するためのシステムの整備状況

<2003年度に設定した目標>

授業形態、教材の多様化に伴う既存教室の機器等を中心とする継続的改善、また情報教育、情報機器を利用した教育、事務効率化などのために必要な情報関係機器・設備の導入を検討していくとともに、将来に向けての目標は以下の通りである。

1. 既存教室のAV化拡充を図る。
2. 情報技術の発達、学院全体のシステムや学生等のニーズ変化に対応して、学部の機器・設備を充実させる。
3. 主にサーバによって提供される情報コンテンツを充実していく。
4. サーバの安定運用のための体制を充実し、技術的な改善をしていく。

（現状の説明）

経済学部においては経済学部本館および準専用講義棟C号館を維持管理している。本館1階には教授控室、委員会室（2室）、学部長室、宗教主事室、事務室、同倉庫（2室）、教室（2室）、学生読書室、ゼミ連絡会室、資料室、資料準備室、学生控室が、2階には大会議室、チャペル、教室（4室）、大学院教室（3室）、大学院研究室、大学院控室、大学院多目的ルーム、学生PC室、ゼミ活動室（2室）、倉庫等がある。また、地下には学生談話室を設けているが、2004年度の資料準備室拡充工事に伴い、隣接する学生控室が狭隘と

なったため、改装、整備を行った。空調完備で、2005年春にはソフトドリンクの自動販売機も設置し、学生の快適なゼミ活動、憩いのコーナーとして大いに利用されている。

準専用講義棟C号館1階には講師控室、救護室（2室）、教室（4室）が、2～4階には演習室を含め教室（19室）があり、そのうちの2室はPC教室である。また、地下には学生用準備室（3室）を設けている。

設備の障がい者への対応としては、本館およびC号館にエレベーター、障がい者用トイレを設置している。また、C号館には視覚障がい者用の点字ブロック、点字表示板、聴覚障がい者用の教室内ループ装置を設置している。

経年による老朽化あるいは未設置のため、教室等の設備・備品に関して改善を要するものは少なくない。授業形態・教材も多様化し、特に最近ではMD・CD・DVDプレーヤー、液晶プロジェクタの増設に関する教員からの要望が目立っている。2004年度から始めたことであるが、次年度予算申請に向けて「設備・備品等希望調査」を教員、事務職員対象に行っており、提出された要望について学部長室委員会で検討を加え、教授会承認の後、予算申請を行っている（一部ではあるが、2005年度認可済）。また、施設・設備の衛生・安全の確保についても、用務員（業者委託）、事務職員、施設部との連携により日常的に配慮しており、緊急を要する場合は修繕あるいは予算外申請で対処している。

情報処理機器については学生によるPCの授業利用や自由利用が増加し、利用ピーク時には台数が不足することがあった。また、容易にPCを利用できる環境を整えることは、学生の情報機器を用いた質の高い学習を促すことになる。そこで、PC台数と利用場所の拡充が、2004年夏のリプレースで行われた。さらに、液晶プロジェクタが備えられていない教室での情報機器利用のための携帯用液晶プロジェクタも、5台に増やした。

		2003年4月	2004年9月
学部PC教室	台数	45	50
	教室	C402、C403	C402、C403
無線LAN接続 ノートPC (貸し出し用)	台数	40	70
	無線LAN 利用場所	学部本館内 学部パソコン室 ゼミ活動室 学生読書室	学部本館内 学部パソコン室 ゼミ活動室 学生読書室 1・2号教室 学生控室 多目的ルーム
携帯用液晶 プロジェクタ	台数	3	5

ネットワーク環境やサーバは本学全体のものとして情報システム室が提供しているが、それに加え、学部独自のサーバも稼働している。まずウェブ・サーバにより学部独自のホームページが開設され、教員紹介、授業科目紹介、ミニオープンキャンパス情報、事務室・パソコン教室・資料準備室からのお知らせ、学部行事であるインターゼミナール大会

の情報などが提供されている。ファイル・サーバは、学部では教職員用のものを稼働させ、教職員間で使う書類や事務処理用紙などを提供して事務処理の効率化が図られている。

情報機器の管理は、教員数人から構成されている学部情報化委員会が行っている。しかし、ホームページのコンテンツは情報機器管理とは異なった視点から作成する必要がある。2004年度に学部広報委員会が組織されたので、コンテンツの作成は広報の一環としてこの委員会が担当するようになった。

(点検・評価の結果)

1. 2004年度秋学期における経済学部本館の全教室使用率は56.0%、最も高い第2時限が73.3%、第1時限および第5時限は40%以下となっている。またC号館では、全教室使用率は61.5%、最も高い第3時限が85.7%、第1時限および第5時限は本館同様40%以下となっている。当然のことながら、科目ごとの履修者数と教室の収容人数、あるいは教室の機器・備品の配備状況との関係があるため、全学で調整のうえ全学共用棟（B号館、第5別館など）や他学部管理棟も使用して授業を行っているが、第2時限から第4時限まではどの教室棟も使用率が高く、教室の割当て、変更には相当な労力を伴う。
2. 教室の機器・備品の配備状況は改善されつつはあるが、十分とは言えない。予算措置を伴うので、老朽化による買い替え、新規設置等の年次計画と予算化について継続的に検討を行う。
3. 経済学部では視覚障がい者の入学実績がなく、本館内には点字ブロックや点字表示板は設置されていない。視覚障がい者の入学が決定した時点で対処することになる。
4. 学生によるPC利用ニーズの量的拡大には、2004年度夏のリプレースでかなり応えることができるようになった。また、無線LAN利用場所の拡充も、ある程度は進んできたと言える。
5. 情報コンテンツの充実は、学部独自ホームページによる情報提供がかなり程度進んできた。学部教職員用ファイル・サーバについては、目標がほとんど達成されている。
6. 学部サーバの日々の運用は、ウェブ・サーバとファイル・サーバについては組織的に行われている。しかし、すべてのサーバの管理は学部教員が個人的に行っている状況が続いており、問題が残っている。

(改善の具体的方策)

1. 現在、キャンパス総合開発検討委員会においてキャンパスグランドデザインの検討が行われているが、近い将来、最新設備が備わった全学共用棟が建設され、これによって教育研究環境の飛躍的な充実が図られることを期待する。
2. 教室の割当て作業を少しでも円滑にするため、また教室の有効利用のため、使用率の低い第1時限および第5時限の活用について、特に専任教員に対してさらに協力を強く求める。
3. 教室等の機器・備品の維持管理とそのための予算化について、今後も教員の要望をふまえながら学部長室委員会を中心に検討を行い、教授会承認のもとですすめていく。
4. 多様な障がい者の学習環境を保障するためには、障がい者本人と家族の希望を聞いて

適切な方法をとることが重要であるが、新たな検討課題が発生した場合は学部長室委員会が大学執行部と連携をとりながら、具体的な支援策を決めていく。

5. 学生によるPC利用ニーズにはかなり応えられているが、情報機器の発達はめざましく、今後もニーズの変化を注視して、それに応える努力が必要である。また、無線LANはキャンパスのどこでも利用可能であることが理想であるが、これは学部での対応には限界があり、情報システム室などによる全学的な環境整備を待つ必要がある。
6. 学部ホームページについては、新設された学部広報委員会が他の広報手段と連携をとって充実させていく。
7. サーバの管理については、現行の教職員組織では限界があり、どのような管理体制が可能か検討する。